

第6章 女子補導団活動の展開—本部活動を中心に—

1923(大正12)年に日本女子補導団として改組され、展開された活動について、ここでは1925年から発行された機関紙『女子補導団』の本部記録を中心にその活動の展開過程について概観する。以下では、第1節では、イギリス、アメリカを中心としたガールガイド、ガールガイド運動の展開と日本の女子補導団運動について 第2節 現在確認できる本部日誌にみる女子補導団の活動について年次別に確認を行なっていきたい。その上で、第3節では、(1) 女子補導団結成時から昭和初期までの本部の動向を確認し、(2) 「満州事変」の少年団、女子補導団への影響、さらに(3) 1934年以降から1942年の閉会にいたる女子補導団について検討する。(なお、女子補導団は、第二次世界大戦の開戦後、とりわけ日本とイギリス・アメリカ合衆国が交戦状態となった1942(昭和17)年初めに解散となるが、それより以前に日本の軍国主義化と英米との緊張関係が高まる中で、機関誌『補導団』も1934年に発行を停止し、それ以降急速に記録、資料が無くなることもあって、その点での限界性を前もって断っておきたい)。

第1節 ガールガイド運動の国際化と女子補導団運動

イギリスのガールガイドは19世紀末からのイギリス国内の課題に対応するものであり、未来の「大英帝国の母」を養成するものであり、ベーデン＝パウエルも国内と植民地諸国での普及が図られたのみであった。しかし、その運動がヨーロッパ諸国、さらにアメリカ合衆国のガールスカウトをはじめ海外に拡大するようになると、その国際性の充実が計られた。ガールガイドの国際会議開催と女子補導団からの参加メンバーは次の通りである¹。

1920(大正9)第1回国際協議会—イギリス・オックスフォード

1922(大正11)第2回国際協議会—イギリス・ケンブリッジ

檜垣茂(補導団国際委員) 出席

1924(大正13)第3回国際協議会—イギリス・フォックスリース

第1回ワールドキャンプ—イギリス・フォックスリース

檜垣茂(補導団国際委員) 出席

(同年、余丁町小学校教員・池田宣政、ボーイスカウトの第2回国際ジャンボリーに女子補導団事務局・余丁町少女団代表の資格で参加)

1926(大正15)第4回国際協議会—アメリカ合衆国・エディスメシー

檜垣茂(補導団国際委員) 出席

1928(昭和3)第5回国際協議会—ハンガリー・パラード

ガールガイド・ガールスカウト世界連盟成立(女子補導団は創立会員に)

1930(昭和5)第6回世界会議—イギリス・フォックスリース

M. E. ヘイルストン(香蘭女学校) 出席

1932(昭和7)第7回世界会議—ポーランド・ビュッツェ

- スイスのアワ・シャレー(Our Chalet)に世界ガイドセンター開設
 1934(昭和9)第8回世界会議—スイス・アデルボーデン
 檜垣茂(補導団国際委員)、A. K. ウーレー(香蘭女学校)出席
 1936(昭和11)第9回世界会議—スウェーデン・ストックホルム
 (1937(昭和12)合衆国ガールスカウト25周年記念)
 国際キャンプ—アンドレクラークに櫻井(吉田)澄参加
 1938(昭和13)第10回世界会議—スイス・アデルボーデン
 ウーレー出席、ビジター：藤村千良、藤村喜恵子(大日本少年団連盟女子部)

以上をみると、女子補導会が結成された1920年に国際協議会が結成され、1924年にはフォックスリースにつくられた施設において、ワールドキャンプが開催されている。イギリスで開催された会議、キャンプもヨーロッパ、およびアメリカを会場として開催されていた。ガールガイドの国際化に合わせる形で、日本の女子補導会も女子補導団に改組して国際化に対応した組織化をはかった。つまり、華族、政府関係者をメンバーに迎えることによって組織、および財政的基盤を整備し、補導団メンバーから海外に代表を定期的に派遣することによって交流をはかっていった。また、女子補導団はイギリス、スウェーデンからの王室、政府関係者の来日歓送迎活動等も積極的に行っている。

その後、1928年の第5回国際協議会では、ガールガイド・ガールスカウト世界連盟(World Association of Girl Guides and Girl Scouts)が結成され、その本部はロンドンにおかれた。女子補導団はこの連盟に創立会員として参加したのである。戦前のガールガイドに関する国際会議に、檜垣茂(東京女学館の教員であり、聖アンデレ教会でも活躍した)は4回参加し、最新のガールガイドの内容と方法を日本に伝えている。また、香蘭で教員を務めていたウーレー、ヘールストンは宣教師としての本国帰国期間を利用する形で、欧米での世界会議に女子補導団の代表として参加している。

第2節 「本部日誌」にみる女子補導団の活動

—機関誌『女子補導団』(1926—1933)を中心に—

補導会から補導団に移行する過程でひとつの契機として、1922(大正11)年にYWCAで開催された補導会のラリーがあり、ミス・グリーンストリートの帰国送別会を兼ねたこのラリーに三島純が参加し、補導団への発展につながったことは先に述べた通りである。女子補導団はイギリス人宣教師と日本聖公会関係者によって始められた補導会というキリスト教運動の要素に、日本のボーイスカウト組織である少年団少女部の要素も含め活動を展開していった。1924年5月には、神田・YMCAで補導団成立大会が開催され、この年、海外でも大連第一組が大連市高等女学校生徒を中心に発足した。

一方で、1922年7月のガールガイド第二回国際委員会以降、女子補導団本部からは代表が継続して参加し、国際的動向を把握につとめていく。ガールガイド運動自体が、国際化の過程でキリスト教国以外の柔軟な対応と運営方針を打ち出していく中で、日本では

国際化を視野におさめた独自の運営を進めていくことになった。その中で、1924（大正14）年に便覧『女子補導団』が編纂され、また、1926（大正15）年からは、毎年度末の3月に機関誌である『女子補導団』が発行される。その内容は、毎号「本部日誌」と各地方の組からの報告等によって構成されているが、以下では「本部日誌」を中心に1925－1934年（大正末期から昭和9年）までの女子補導団の活動概要について以下年度別に概観したい。

【創刊号】1925（大正14）年度

機関誌『女子補導団』の発刊は例年3月であるため、創刊号（1926年3月）は1925年度の動き全体を総括するものとして描かれている。この時点では、補導会時代からの東京、大阪、神戸の聖公会系女学校を中心とした活動であり、あわせて、余丁町、大連の活動も開始されていた。この年、普通選挙法が成立し男性に対しての普通選挙権が確立した年であるが、一方で治安維持法も成立している。教育関係では、世界的軍縮の中で余剰となった軍人について陸軍現役将校学校配属令が公布され、官製化、組織化がすすめられていた大日本連合青年団が結成されている。なお、東京では神田、上野間の高架線工事が完成して山手線が環状運転を開始し、日本の中央駅構想に位置づけられた東京駅、丸ノ内口とともに東京の近代都市化がさらに進んでいった。

発刊の辞として総裁の林富貴子は次のように述べている²。

女子補導団々報を発刊するに当り一言申述べたいと思ひます。

世界戦争後各国とも知育訓練の両方面に於て怠りがちになつておりますが我国は知育は盛んで喜ばしい事で御座います但し訓育の方面はどうかと思はれます。それをよくするには周到なる方法を講じなければ中々困難な事と思ひます。こゝに女子補導団は人格の養成品性の涵養に全力を挙げたいと思ひます。人は社会の環境の刺戟を受けて之に対応する力を生し之によつて善き品性が培はれるのでありますからまづ団員各自が人格の向上を計り品性の涵養につとめ、よき環境を作るべく努めて、漸次に他に及ぼし延いて国家社会が善き影響を受けるやうになれば畢竟我々国民の最大幸福を増進する事が出来るのであります、是故に我々団員は卒先してこれに当たるのが義務であると信じます。云ふは易く行ふは難しと古人が申しましたが其難い事を不拔の精神を以てしてよき模範を人に示されん事を切望してやまぬ次第で御座います。

新に発刊された団報が本団の目的を遂行する上に役立ち、又団員相互の理解親善の上に大いなる寄与を為す事を幾庶います。

ここでは、第一次世界大戦後の教育の課題として訓育、具体的には、人格養成、品性涵養をあげている。大正期から昭和にかけて、都市部では、男女ともに中学校、高等女学校への進学熱が高まりつつあり、それにもなつて知育偏重の弊害も指摘されていた。また、知識とその実践性については、補導団便覧で示された目的が改めて確認されたともいえる。6－8人のグループを原則とした自主性をもった班活動、自然理解、野外活動等もその目

的の中に位置づけられている。

その上で、1925年時点での団員別並に組織について、「高等小学校並に高等女学校一年以上の年齢の者を普通団員」とした上で、さらに次のように説明されている³。

一、小学校時代の者を少女部団員とします。

二、六人又は八人の団員を以て一班を組織し二班以上の時は合して一組とします。

各班は班長並に副班長に従って行動し各組長及び副組長の指導を受けます。

三、団の役員として総裁副総裁各一名を置き各地方の団長はそのもとに従属します。

又別に本部に役員があつて総裁副総裁を補助します

本部には各組からの代表者と賛助員からの選出者とで組織された常務委員があります。そして特に実務に当るために常務委員の中の若干名を以て書記会計庶務の各係りを分担いたします。

四、賛助員 団の事業に賛成され年額金五円以上を寄附せらるゝ有志の方を賛助員といたします。

五、日本に於て此運動を全国的に統一されたものにする為に新たに加入され様となさる方々は本部へ詳細を御問合せ下さる事願ひします。

六、組を新たに作らうとする時は先づ六人或は八人の補導団員を二三ヶ月班長として養成しその人々を班長として其の下に新加入者をもつ二三の班を組織するものであります。此の新加入者が入団の仕度が調つたならば本部に願つて組長が来て入団して頂くのです。

ここでは、少女の組（ブラウニ）の設置、6－8人のグループによる班組織と二班以上による組の結成を行うこと、本部への申請登録、地方の団長と本部との関係、さらに財政的課題から賛助員についても記されている。なお、女子補導団のこの時点での本部組織は次の通りである⁴。

本部	所在	東京都芝区白金三光町三六〇	香蘭女学校内
総裁		林伯爵夫人	
副総裁		三島子爵夫人	
役員		三島夫人、ミス・ウーレー	桧垣茂、荒畑元、池田宜政
常務委員		賛助員ヨリ十名、各組ヨリ二名	ヅノ代表ヲ以テ組織ス
国際委員		桧垣	(東京市麻布区飯倉五丁目二十九番地)
団長		ミセス・バンカム	(在東京) ミセス・マシユース(在東京)

この他、創刊号では、1925年度の活動として次の組からの報告と記事があった。

- 東京第1組B 桧垣茂、宮川愛子 ○東京第4組 桧垣茂
- 東京第2組 山縣三喜重 (内容は大連補導団) ○余丁町少女団 池田宜政
- 大阪第1組 ミス・バックス ○大連女子補導団

- 研究 ○星座 ○衛生に関する日々の注意 ○茸について
- 遊戯と対話 ○文苑(東京第1組Bの8月の鎌倉姥ヶ谷海岸でのキャンプの回想あり)

【第2号】1926（大正15－昭和元）年度

大正の末年となったこの年、組としては、東京、関西の大都市を中心とした聖公会系女学校、教会の組活動の他、余丁町にみられる少年団少女部の性格を持つものが継続して活動し、猪苗代湖畔のアンデレ教会所有の別荘を活用したキャンプ、少年団臨海ジャンボリーへ参加する組があり、スウェーデン、イギリス等の外国人ゲストへの対応と国際交流に東京を中心とした各組が中心となって対応し、多様な活動を進めている。

なお、機関誌は1927（昭和2）年3月発行であり、冒頭に、「大正天皇御登遐」哀悼の扉からはじまる。1926年12月25日、大正天皇崩御によって昭和に改元が行われた。なお、この年、壮丁準備教育の徹底のため中等教育学校以外の勤労青年を対象とした青年訓練所令が公布されている。主たる記事は次の通りである⁵。

- 「女子補導団について」 桧垣茂－日本の補導団とイギリスのガールガイドの関係、ガールガイド運動についての説明
- 「女子のつとめ」－大江すみ子（東京家政学院院長）による補導団講演会の概要。
- 「ガールガイズ及びガールスカウト第二回世界大会の概略」 1926年5月にニューヨーク市外ハドソン川近傍で開催された大会について、参加した桧垣茂による報告。
- 「新聞紙に現はれたる世界大会」 櫻井国子
- 「少女を弁護するベーデン・ポエル卿」－ガールガイド運動に関する世界各国記事の紹介等。
- 「私共の生立ち」－井原たみ子による東京第4組（東京女学館）の説明。
- 「単独団員のこと」－身体的、地理的理由による組活動参加が困難な会員組織の案内。
- 「女子補導団単独団について」－1926年9月から女子補導団に普通団員、少女部の通常の班活動の組織の外に単独団員の組が組織された。これは、「(イ)すでに普通団員として入団した者で家庭、学校の都合上又は身体の弱いため規則的集会に出席は不可能でもなほ団員としての資格を保つ者。(ロ)規則的集会に出席し普通団員としての課程を践ふと望んでも近傍に出席すべき組の存在しない地方に住んで居る者」⁶を対象としたものであり、出席困難が解消されれば通常参加が認められる。通常は通信等を中心として参加する団員。これは、多様な形での団員組織の拡大を検討とともに、会員の少女たちの保護者に大企業勤務者が多く存在し、国内外の転勤が少なくない状況を反映していた。地方都市において補導団組織が結成されていない現状をしめすものでもあった。単独団員組織については、桜井国子（書記）、諏訪愛子（会計）が担当した。
- 「臨海ジャンボリー報告」－余丁町少女団員12名が7月22日から31日まで少年団の臨海ジャンボリーに参加したことの報告。
- 「上戸の夏季集會」－福島県猪苗代湖畔のアンデレ教会の女性宣教師ディクソン(Eleanor

M. Dixon) 宅で開催されたで7月末1週間のテント生活を含むキャンプ集会の報告。各組から参加あり。

○スウェーデン皇太子—溝口歌子(第1組B)、9月12日、スウェーデン皇太子夫妻が聖アンデレ教会礼拝に出席、東京の団員約百名が整列してむかえる。林総裁からスウェーデンのガイド総裁である皇太子妃に銀製の団章を贈呈した。また、9月13日、林邸においてイギリス人本部リーダーのミス・レイトン歓迎会が開催された。プログラムは次の通り。

1. 団旗掲揚及び君が代
2. 林総裁の歓迎の辞
3. 運針競争(ブラウニを除く全員、ニ尺のさらしで組ごとの競技)
4. 手旗信号
5. 余丁町少女団の遊戯
6. お料理(汁、のり巻、どんぶり等)
7. ブラウニの遊戯(第1組B)

○「逗子に於けるキャンプ」—東京第一A組の報告

1926年7月13日から17日まで、逗子で行われたキャンプの報告。聖ペテロ教会を拠点にキャンプ、水泳、登山等を行った。T.ウィリアムス、ウーレーが指導者。

○「和服団服に就いて」—補導会以降、イギリス式の洋服と和服の双方が併用されてきたが、その体裁、運動性、経済性から次のように意見を求めている⁷。

団の精神の表現とも云ふべき団服に就て、私共和服団服係りから皆様に一言お願いがございませう。和服団服は外見の体裁、運動の自由、経済上安価等の展から理想的なものでありたく、つきましては、和服団服は現今の儘で良いでせうか。また改良を要するならばどの点をどう改良したら宜ろしいでせうか。右の御意見を広く皆さまから伺はせて頂き度うございませう。

イギリスから取寄せる洋式の制服は高価であり、また、海外でも和式の団服が好評であったが、団員が所属する女学校を含め社会の洋装化が進み、機能性の上からも転機を示す記事でもある。

【第3号】1927(昭和2)年度

ボーイスカウト、ガールガイド運動を進めるベーデン・パウエル夫妻の誕生日が同じ2月22日であることを記念した国際記念日シンキング・デーの制定があり、イギリス、アメリカ合衆国との人形の親善交換も行われた。これまで、女子補導会、補導団ともに聖公会の学校、教会を中心としたものであったが、この年の夏に東京で行われた共同キャンプは、少年団日本連盟の協力を得て行われている。

この年は、3月に片岡直温大蔵大臣の発言を端緒として銀行の倒産、金融恐慌が勃発し、4月には例外の無い国民皆兵を徹底させた兵役法が公布された。中国大陸では第一次山東出兵が行われている。社会教育面では、大日本連合女子青年団、全日本婦人同盟が結成さ

れている。

この年から、本部日誌には、冒頭に具体的日時が記載され、日程が確認できる。その日誌は次の通りである⁸。

- 2月22日 ガールガイドの国際記念日としてシンキング・デーが制定された。これにあわせて、ベーデン・パウエル夫妻に本部より祝詞を送る(夫妻の誕生日)。
- 2月26日 記念日を守るため、香蘭女学校講堂に東京各組の団員集合。
- 4月 ① 盛岡市で女子補導団第一組発団式(ウーレー、ヘールストン、桜井国子出席)
② 本部役員ウーレー休暇のためイギリスに一時帰国。
- 4-5月 イギリスの指導者4名旅行の途中日本に立寄り東京の団員に面会。
- 6月 ① 米国本部よりの依頼で制服着用、子供服着用の人形を各一体送る(着用服は第一と第二組の有志にて仕立てる)。
② 18日、午後東京各組合同にて香蘭女学校講堂に於てバーネット夫人より動物愛護の講演。
- 7月 スイスで開かれたガールガイド国際連盟の天幕集會に日本を代表して帰英中の本部役員ウーレー参加。
- 8月 8日から一週間、麻布高松宮御用地で有志団員の夏季特別野外集會開催。
- 10月15日 青山学院構内で女子補導団の集いを開き当日の純益を動物愛護のため「人道會」に寄附。当日のプログラムは次の通り。
 - 一、ヴァイオリン 指導者(ヘールストン)並に団員
 - 二、童話劇 余丁町少女団
 - 三、狂言 第一組
 - 四、歌 第一組ブラウニ
 - 五、ダンス 外人団員 休憩(二十分)
 - 六、琴 第四組
 - 七、対話 第一組
 - 八、劇 外人団員
- 11月 ① 埼玉県大宮にて女子補導団第一組の発団式を挙げる
② 右の発団式の為本部役員大宮に行く
③ 英国の本部に吾が女子補導団の報告を送る
(1928年)
- 1月 5月にハンガリーのブタベストで国際連盟大會開催があること、日本女子補導団から代表者出席の招聘。欠席を通知。

なお、上記のうち、8月に東京で行われた各組共同の野外キャンプについて次のような報告があった⁹。

私共団員は毎年何等かの形で夏季集会を開く様に計画して居りますが何時も地方で開きますために参加し得る者が誠に少数に限られてしまひます、それで今年は何とかして東京に居る団員の為め東京で特別集会を開き度ものと希望して居りました折柄麻布盛岡町の高松宮御用地を拝借し得られるかも知れぬとの事を聞き早速少年団本部の二荒伯の御了解と御援助を得遂に六月二十五日林総裁の御供をし二荒伯と同道高松宮邸に伺候し石川事務官を通じて右御用地を八月中二十日間拝借致し度旨御願ひ申上げました所早速御許可下され此所に予想以上の好き集会所を与へられました。

続いて二荒伯初め其他少年団本部の役員方から非常な御同情と御援助を与へられまして着々準備を進めました。

愈七月末にテント張をして八月初めに準備的実地予習を初める迄各組の指導者等と数回の相談会を開き仕事の分担等を定めました。

文中の二荒伯は少年団日本連盟の二荒芳徳のことである。女子補導団を少年団日本連盟の関係者が支援している事例である。ここまで、聖公会系女学校、教会とは別個の動きとして東京少年団の関係から出発した東京の余丁町小学校、静岡市場内小学校少女団の事例を取り上げたが、この年、4月の盛岡での組発足においても少年団日本連盟の岩手県支部の松岡修太郎、高橋栄造の協力が存在し、補導団と少年団の組織、事業上は別個であっても相互支援と連携が明らかな動きとして登場している。

【第4号】1928（昭和3）年度

東京、大阪、盛岡の班は活動を継続するが、大連で指導者カートリッジの辞任、神戸では普通団員の時間的な理由から一部活動の困難が指摘される。いっぽう、東京、大阪、盛岡に加え、北関東、福島地区において活動がはじめられている。これらは、後述するが聖公会北関東教区の動向である。この年、普通選挙法による男子普通選挙が実施されたが、一方で思想的取締りが強化された年でもあった。共産党員の一斉検挙、労働農民党、日本労働組合評議会、全日本無産青年同盟への解散命令の他、文部省によって学生、生徒の思想傾向の匡正、国民精神の作興が進められた。

1928年版の冒頭においては、林富貴子は前年の昭和天皇の即位と代々木錬兵場での観兵式について次のように述べている¹⁰。

昨秋は御即位の式をあげさせ給ひ国をあげておよろこび申上ておりました其十二月の観兵式の直後代々木辺から電車にのりました兵士三人がしきりに『よかつたく』と申しております—中略—遠方から来たらしい兵士達が自分達の陛下としての御健康を心から御つゝがあらせられないやうにといのる誠心、何といふ美しい事で御座いませう。かういふ心をもつ人があればこそ日本は世界の列強として立つて行かれるのだとふかく思ひました。

君に忠誠をちかいますといふわが補導団の契約にあてはまる言葉なのでわれら団員も此三人の兵士におとらぬ精神をもたねばならぬとふかく思ひつゝ記しました。

前年の昭和天皇即位により、昭和時代の活動が始められた一年でもあった。この年の本部日誌からの活動概要は次の通りである¹¹。

- 4月17日 本部役員会
- 7月14日 林総裁の招待により同邸庭園で東京、大宮の団員集会
- 9月7日 本部役員、東京各組の組長の相談会
- 9月27日 東京各組の団員が香蘭女学校講堂に集り、帰国した第一組々長ミス、ウレーの講演を聞く
- 10月27日 余丁町小学校運動場にて東京全団員の大会を開く
- 11月16日 イギリス本部へ報告

(1929年)

- 2月3日 シンキング・デーにベーデン・パウエル夫妻に本部より祝詞を送る。

なお、団の現状については、次のように説明されている¹²。

昭和三年十月中の調べによれば指導者総数二十七名団員三百十七名になります。東京では大した変化は御座いませんが地方では其の後集會を中止された所なども御座いますから団員数の上に多少の変化が出来て居る事と思ひます。

一番若かい大宮の組は誠に好成績に成長して居られます。

大阪では組長ミスバツグスが転任なされたのでミスウ井リアムスが之れに代られました。

神戸では団員の時間其の他の都合で普通団員の集會を中止され少女部団員の組を初められました。

盛岡では松岡氏の代りに村上しげ子氏が指導される事になりました。

大連ではカートリツヂ夫人が止むを得ぬ事情で団長を辞任され其の後同夫人に代る可き指導者を得られないために同地の団員は非常に困難な位置に立たれて居るとの事同情に堪ません。然し猶ほ同団員等には熱心に努力して団の發展をはかつて居られる様子ですから其の内に再び有力な指導者が与へられる事で御座いましょう。

福島市では昨年来我々の団にならつて集會を初められましたが中々困難が多くて困つて居られるとの御同情は申て居りますが遠方の為御援助も出来ず残念に思ひます。今年はどうか団が成立して私共の御中間入りをして戴き度と希望致します。

目下栃木県足尾からも加盟を希望して居られます。

【第5号】1929（昭和4）年度

7月、ウーレーが箱根に借りていた別荘で行われた指導者のキャンプには、各地から指導者が集合した。林富貴子、寿子は欧米旅行でガールガイド、ガールスカウト本部を訪問し、イギリスではオレブ、ベーデン・パウエルと面談した。

この年、10月に、ニューヨーク株式市場が暴落し、世界恐慌が始まった。日本国内でも生糸価格の暴落とともに経済恐慌が深刻化した。教育面で、文部省は国体観念明徴をは

じめとした教化動員を実施し、中央教化団体連合会が設立された。また、社会教育課が社会教育局に「昇格」し、あわせてその中に青年教育課が設置されている。1929年度の本部日誌は次の通りである¹³。

- 2月9日 林総裁の息子、鹿園男爵の告別式に参列(本部役員並に東京各組代表者)。
- 2月22日 シンキング・デー、ベーデン・パウエル夫妻に本部より祝詞を送る。
- 4月中2回 本部役員会並に組長会開催。
- 5月5日 英国第四ヘンリー皇子来日、芝罘町聖アンデレ教会前に整列し外人団員と共に送迎(東京団員一同)。
- 5月18日 青山四丁目常盤会館で女子補導の集いを開催。
- 6月4日 本部役員並に組長会
- 6月15日 林総裁、長女寿子の欧米視察旅行の送別会。於香蘭女学校講堂。
- 6月23日 林総裁一家東京駅発渡欧に出発。
- 7月19日ー24日 箱根町で指導者訓練のキャンプ開催。参加者は次の通り。
指導者訓練のキャンプ(竹井富美子)
東京……ミス・ウーレー、ミス・ヘルストン、桧垣茂、小久保美佐保、徳川恵子、溝口歌子、井原民子、田沼阿久里、河合美代子、竹井富美子
大阪……加藤文子、吉田千鶴子、木村梅子、大久保清子
徳島……ミス・バッグス 長崎……黒田昌子 盛岡……岩泉美登里
大宮……加藤きみ子 沼津……ミス・エドリン
- 8月29日 福島県中田村郡片曾根農業公民学校教師渡井芳枝の入団式。
- 9月16日 本部役員会。
- 9月21日 香蘭女学校で福島県田村郡農業公民学校生徒15名の入団式。
- 10月27日 満州長春にて長春第一組設立。
- 12月14日 本部役員並に組長会。
- 12月20日 林総裁帰国

(1930年)

- 1月25日 欧米訪問から帰国した林総裁歓迎会。於、香蘭女学校講堂。

団の現状¹⁴について、次のように説明されている。

昭和四年末日の調べによる団の状況は左の通りで御座います。

東京に第一より第四までの四組。地方に大宮、福島、盛岡、大阪の四組。満州に大連、長春の二組及単独団員組にて総計十一組。其れに目下大阪四ヶ島で一組初められて居ります。

団員数は指導者三十名。団員二百八十七名で新しい組が設立されたにも係らず前年度より全体に於いて少し減じました。之れは神戸と大阪第一組が解散された為で御座います。誠に残念ですが止むを得ません。

昭和四年は総裁が御留守で万事不行届の点多かつた事と存じますが本年は英国の

本部を始め各国の姉妹団を御歴訪なさつて御無事御帰朝遊ばされた総裁をお迎へした事で御座いますから各方面に向つて大に発展致し度と切望して居ります。又先頃御赴任になりました加奈陀公使夫人が非常に御熱心な女子補導団の指導者で我々と親睦して下さる事も団の発展上喜ぶべき事と思ひます。

本年七月英国本部指導者訓練地なるフォックスリースで女子補導団国際連盟大会が開かれます。我々日本女子補導団からは第一組のヘールストーン女子が代表者として参加される事になりました。

巻末に示された、各組所在地と指導者は次の通りである¹⁵。

東京第一組	東京市芝区白金三光町三六〇香蘭女学校内
ミス・ウレー	竹井富美子 野田まち子 島田つね子 弥永時子
東京第二組	府下渋谷町 東京女学館内 (アンデレ教会を担当、筆者注)
桧垣茂	井原民子
東京第三組	東京都牛込区 余丁町小学校内
池田宣政	
東京第四組	東京市渋谷区羽沢一 東京女学館内
桧垣茂	五十嵐国子
大宮第一組	埼玉県大宮町桜木町九三四 愛仕母学会内
大越房子	岡田わか 加藤きみ子
盛岡第一組	盛岡市仁王小路 仁王幼稚園内
岩泉みどり	
大阪第二組	大阪天王寺町 プール女学校内
ミス・ウイリアムス	加藤文子
大連第一組	大連市大連 高等女学校内
幹事	田村幸子
長春第一組	長春常磐町二丁目八の四
組長代理	田中富貴子
単独団員	東京府下駒沢町上馬一三七六
桜井国子	

【第6号】1930（昭和5）年度

この年、林富貴子総裁による欧米訪問成果の報告活動の他、機関誌とは別にリーダー支援のため「指導者の友」が発行された。聖公会北関東教区の動きとして日光の幼稚園でブラウニが発足した。

1930年は、ロンドンの海軍軍縮条約が調印され、国内で批准された年であった。前

年のニューヨークの株式暴落の影響が本格的に国内に波及し、操業短縮、賃金削減、失業問題が深刻化し、その状況は1932年頃まで継続した。国体明徴と神社への強制参拝に対してキリスト教55団体が考慮を要望している。女性の公民権認証に関して市制、町村制改正が衆議院で可決されたが、貴族院では審議未了になっている。なお、女性、子どもの人権に関して言えば、1925年に女性・児童の売買に関する国際条約について国内限定での調印が行われ、1929年には工場法改正公布によって、女性と年少者の深夜労働等が禁止されているが、一方で経済恐慌の継続と東北地方等の凶作によって欠食問題、人身売買の問題が深刻化していく時期でもある。

本部日誌は次の通り1月から12月で年間の記述が行われている¹⁶。

- 1月8日 組長会
- 1月25日 林総裁帰国歓迎会、於香蘭女学校講堂
- 2月22日 シンキング・デーにベーデン・パウエル夫妻に本部より祝詞を送る。
- 5月2日 役員会「指導者の友」の発行について協議、可決
- 6月11日 役員会
- 6月23日 「指導者の友」第1号発行
- 7月1日 役員及組長会
- 7月5日ー17日 英国フオツクスリースで開催されし第6回ガールガイド世界大会
本部役員でイギリス帰国中のミス・ヘールストン参加
- 9月13日 組長会
- 10月4日 補導団大会開催、於東京キリスト教女子青年会館
- 11月26日 役員会
- 12月25日 東京の団員有志より「同情金九円」を東京府社会事業協会へ寄附

この年の概要について「昭和六年一月中の調によれば指導者総数二十七名団員数約三百名になります。東京では大した変化はございませんが最近渋谷に新しい組が生まれやうとして居ります。地方では、大宮の団員であつた方が日光に新たにブラウニをおはじめになりました」¹⁷と説明されている。

【第7号】1931（昭和6）年度

1931年は9月に「満州事変」がはじまり、15年戦争最初の一年となった。男子には学校への配属将校配置、勤労青少年のための青年訓練所等によって壮丁準備教育の強化が進められていたが、家庭の女性を対象とした大日本連合婦人会が発足し、4月には重要産業統制法が公布され国家総動員の体制が形成されていった。「満州事変」にともない、長春健児団が軍部への支援活動を行い、少年団日本連盟も三島通陽を団長とした満蒙派遣団を実施し、日本のボーイスカウトの軍部支援が進められていった。女子補導団では欠食児童への寄付のため「音楽と影絵の会」が帝国ホテルで開催され、その募金が寄附されることになった。その意味での、慈善事業の性格を發揮した一年でもあ

った。大連、長春の女子補導団は休止状態となっている。この年、少女団員のための『ブラウニ便覧』が発行され、京都で少年団指導者による女子ガイド運動が準備されている。

この年の本部日誌は以下の通りである¹⁸。

- 1月28日 役員会
- 2月22日 世界記念日を祝うため東京団員は三光教会で記念礼拝
- 2月28日 シンキング・デー、ベーデン・パウエル夫妻に本部より祝詞を送る。
- 3月18日 女子補導団第六号発行
- 5月15日 役員会
- 6月25日 役員会
- 7月3日 築地聖ルカ病院で小児科定方医師から衛生講話
- 9月16日 役員会
- 10月24日 欠食児童救済のため音楽と影絵の会開催（於.帝国ホテル）
- 11月4日 役員会
- 11月11日 音楽と影絵の会純益金三百円を東京市教育局を経て児童の弁当箱代として寄附
- 12月 『ブラウニ便覧』発行

なお、各組の指導者及団員数表が掲載されている¹⁹。

	指導者数	団員数	ブラウニ数
東京第一組	四名	四十六名	十七名
東京第二組	二名	九名	
東京第四組			
大宮第一組	二名	十四名	
日光第一組	一名	七名	二十名
大阪第二組	四名	十三名	
草津第一組	二名		十一名
沼津第一組	一名	十一名	
単独団員		十六名	

【第8号】1932（昭和7）年度

この年、海外では第一次上海事変、「満州国」建国宣言が宣言された。国際連盟からイギリス人リットンを代表とした調査団が派遣され、結果として日本軍部の侵略が批判されることによって対米英関係が悪化した。国内では5・15事件が発生し、東京市は5郡82町村を併合した大都市となり、そこでは、大日本国防婦人会が結成された。

女子補導団については、長野県・第一組（小県郡弥津村愛シスター会）、群馬県・草津第

二組（草津町平和館）、沼津第一組（清水上聖公会）、久喜第一組（久喜児童の家）と地方のブラウニが複数、結成された。

この年は、本部日記として1932年1月から33年2月迄が示されている²⁰。

- 1月22日 本部主催にて指導者としての準備講習会を開く。
- 1月24日 林総裁長女、寿子結婚祝いとして在京団員一同より記念品贈呈。
- 2月3日 役員会。
- 2月22日 シンキング・デーにオレブ・ペーデンポエルに祝電を送る。
- 3月23日 要旨『補導団とは』を改正印刷。
- 3月23日 女子補導団第7号発行。
- 6月8日 役員会。
- 7月21日－27日 栃木県塩原福渡温泉三島副総裁別邸にて指導者訓練のキャンプ
- 8月22日 長野県小県郡弥津村で入団式。本部役員ミス・ウーレー出張。
- 8月24日 草津第二組ブラウニ入団式。本部役員ミス・ウーレー出張。
- 9月13日 役員会。
- 11月16日 役員会。

少年団日本連盟奥寺龍溪を本部顧問に招請。

日本女子補導団絵葉書を印刷、その一部を連盟本部を通じ外国団員へ頒布した。

（1933年）

- 1月4日 沼津第一組ブラウニで入団式。本部役員出張。
- 2月22日 世界記念日（シンキング・デー）連盟本部の資金調達寄附募集に合わせ、全団員より集めた14円を本部送金。

この年の各組の指導者及団員数は次の通りである²¹。

	指導者数	団員数	ブラウニ数
東京第一組	四	四〇	一〇（及見習四）
東京第二組	二	五	（見習数名）
東京第四組	三	八	
大宮第一組	二	八	
日光第一組	一		二三
大阪第二組	二	三〇	
草津第一組	一		一〇
草津第二組	一		一八
沼津第一組	五	八	一八
長野第一組	四	三〇	二八
久喜第一組	一		三〇

単独団員	一	一六	
合計	二六	一四五	一三七

総計 三〇八

【第9号】1933（昭和8年）度

この年、1924（大正13）年に刊行されたハンドブックである『日本女子補導団便覧』の改訂版が刊行され、ゲーム、レクリエーションのガイドブックである『室内 屋外遊戯集』も刊行された。便覧改訂版については、先にものべたように、女子補導会時代、および大正時代の版にくらべ日本の補導団独自の記載が増え、ガールガイド運動の日本的定着を示すものであった。また、日本の沼津の四恩幼稚園で第一組ブラウニが発足し、バーデン＝パウエル、オレブの誕生日を記念する形で国際友愛基金（シンキングデイファンズ）の募金運動が始められた。いっぽう、政治的には、万国赤十字大会が日本で開催されたものの、国際連盟から脱退し、国内的にも文部省に思想局がおかれその統制が強められることになった。ガールガイド世界会議に参加にウーレーと桧垣が出席している。

本部日記は次の通りである²²。

- 3月20日 「女子補導団」第8号発行
- 4月20日 「女子補導団便覧」改訂版発行
- 5月16日 役員会
- 6月23日 賛助員、役員指導者の親睦懇談会
- 7月20日 「ブラウニとは」（要旨）を発行
- 7月21日－25日 東京第一組主催のキャンピングを相州辻堂 Y・M・C・A 天幕村に開く、東京、沼津、久喜各地の指導者も参加。
- 9月24日 埼玉県久喜町久喜第一組入団式に役員ミス・ウーレー、竹井氏出張
- 10月5日 役員会
- 11月1日 賛助員岸澄子邸弔問
- 11月11日 「栄養料理と病人料理」講習会第一回開催 講師内田氏
- 11月18日 料理講習会第二回
- 11月25日 料理講習会第三回
- 12月18日 新賛助員佐々木信子氏入会
- 12月21日 竹井富美子結婚のため書記、会計辞任、三田庸子引継ぎ。

（1934年）

- 1月10日 スイスの世界大会への出品物について相談会
- 2月9日 役員会
桜井澄子、国際連盟書記に就任のため本部書記を辞任
東京団長ミセス・バンコム病気のため辞任
- 2月18日 米国ガールスカウト需品部の依頼により日本女子補導団便覧及、ブラウニ

便覧各一冊を送付。

○2月22日 シンキング・デーにオレブ・ペーデン・パウエルに祝電を送る。

1933年、年度末の各組の指導者及団員数は次の通りである²³。

	指導者数	団員数	ブラウニ数
東京第一組	四	四八	一〇(及見習四)
東京第二組	一	五	見習数名
東京第四組	三	八	
大宮第一組	二	八	
日光第一組	一		一八
大阪第二組	二	三〇	
草津第一組	一		一〇
草津第二組	一		一七
沼津第一組	四	一一	一四
長野第一組	四	三〇	二八
久喜第一組	三	三	三五
単独団員		一五	
合計	二六	一五八	一三二

総計 三一六

1933年、年度末の本部役員、および各組を添付しておきたい。

本部役員住所氏名

総裁 林伯爵夫人 東京市渋谷区幡ヶ谷本町三丁目三九九 (電四谷三七〇)

副総裁 三島子爵夫人 東京市麻布区本村町一一〇 (電高輪四五二二)

書記 桜井澄子 前出

編集 井原たみ子 東京市目黒区中目黒一ノ七八七

需品部責任者 ミス・ウレー 三田庸子 香蘭女学校内

各組所在地並ニ指導者

東京第一組及ブラウニ 東京市芝区白金三光町三六〇香蘭女学校内

ミス・ウレー 三田庸子 木藤信子 桜井澄子

東京第二組 東京市芝区栄町八 聖アンデレ教会内

榎戸敦子

東京第四組 東京市渋谷区羽沢一 東京女学館内
 桧垣茂 増田恭子 江連ヤヨ子
 大宮第一組 埼玉県大宮町桜木町九三四 愛仕母学会内
 土肥貞子
 日光第一組ブラウニ 栃木県新光町四軒町 愛隣幼稚園 木村里代
 大阪第二組 大阪市東成区勝山通五丁目
 プール高等女学校内
 ミス・ウイリアムス 加藤文子
 草津第一組ブラウニ 群馬県草津町 聖マーガレット・ホーム内
 ミス・ネテルトン 山中よし子
 草津第二組ブラウニ 群馬県草津町 平和館内
 本橋たみよ
 沼津第一組 沼津市三枚橋清水上聖公会内
 ミス・エドリン 進藤敏子
 沼津第一組ブラウニ 沼津市山王台 四恩幼稚園内
 南岡春枝 村山愛子 佐藤好千代
 長野第一組ブラウニ 長野県小縣郡弥津村 愛シスター会内
 土屋知枝子
 久喜第一組ブラウニ 埼玉県久喜町 久喜幼稚園内
 倉戸敏美
 単独組 責任者 東京市牛込区矢来町二三
 (書記) 関まつ子
 東京市品川区大井立会町五三三
 (会計) 西沢愛子

第3節 戦時体制下の女子補導団本部

ここでは、(1) 女子補導団結成時から昭和初期までの本部の動向を確認しながら、(2) 「満州事変」の少年団、女子補導団への影響（ともにイギリスと関連をもつという点において）、さらに(3) 1934（昭和9）年以降から閉会にいたる女子補導団について述べておきたい。

(1) 昭和初期までの女子補導団

ここまで1925（大正14）年度から1933（昭和8）年度末までの女子補導団の本部を中心とした活動について、機関誌『女子補導団』の本部日誌を中心に概観した。1920（大正9）年はじめに香蘭女学校で発足した女子補導会は、東京の聖公会系の女学校、教会での活動であったが、関西および地方都市での班、組の結成が行われ、また日本

のボーイスカウト運動である少年団の協力を得て結成されたものも登場する。

併行して、1923年にそれまでのイギリス連盟の日本支部から独立する形で、日本女子補導団に改組され、華族であり当時の帝国大学教授で教育関係者、林博太郎の妻である林富貴子を総裁に、同様に少年団日本連盟の指導者でもあった三島通陽の妻、三島純を副総裁にむかえた。それによって、キリスト教主義の教育活動としての性格を後退させる形で組織の拡充をはかっていった。初期においては、1924年の『女子補導団便覧』においてキリスト教主義を否定しながら、同書に祈祷文が掲載されるという矛盾、あるいは並存現象を生んでいる。しかし、この動きは、日本の女子補導団のみではなく、ガールガイド、ガールスカウト運動全体の運動方針にも対応したのもであった。つまり、当初は大英帝国の次代の担い手と母の養成を目的としたガールガイド、ボーイスカウト運動が、国際的にひろがりを見せるにつれて、キリスト教としてのエキュメニカル（非宗派的）のみではなく、キリスト教国以外での普及を視野に入れたものとなっていくからである。キリスト教徒ではない総裁、副総裁を本部にむかえ、政府関係者さらに軍部および学校関係者の紹介から日本に導入された少年団関係者との連携、協力を得ていくことになる。

その意味では、女子補導団としての組の形成には初期のキリスト教教育とその人間的結びつきとしての側面と、少年団日本連盟との関係から結成された二通りがある。前者については、香蘭、プール、松蔭、東京女学館、さらにアンデレ教会を初めとした団であり、後者は余丁町、静岡などの少女団である。もちろん、キリスト教的な側面と少年団日本連盟双方の要素が複合的に組み合わされているものもある。例えば、盛岡聖公会教会と岩手県少年団による盛岡一組である。また、昭和初期には、東京地区の合同夏季キャンプが少年団関係者の協力を得て行われている。

(2) 「満州事変」と少年団、女子補導団

昭和期に入ると日本の不況に世界恐慌が加わり、国内経済は深刻な状況が続いた。日本は、打開のひとつの方向を対外侵略にむけていった。1931年9月18日、奉天郊外の柳条湖の満州鉄道で爆発事故があり、これを中国軍によるものとした日本の関東軍は沿線都市を軍事的に制圧する。「満州事変」である。これによって日本にとっては第二次世界大戦につながる15年戦争が始まることになった。中国がこの問題を国際連盟に提訴したことによって、イギリス人リットンを団長とした調査団が派遣され、結果的に日本軍の起こしたものであることが報告された。国際連盟総会がこの報告を認めたことによって日本は1933（昭和8）年に同連盟を脱退すると、国際的な孤立化とイギリス、アメリカ合衆国との緊張関係も高まっていくことになった。

この15年戦争は、少年団運動に大きな変化をもたらした。「満州事変」当時、長春健児団、鉄嶺少年健児団、ハルビン少年団、安東少年団、奉天健児団、旅順少年団、大連少年団等が結成されており、長春健児団は銃器弾薬の運搬、伝令任務、負傷兵救護搬送、飛行場の天幕張り等の支援活動を行っている。さらに、三島通陽を団長とする慰問のための満

蒙派遣団が11月に現地に赴いている²⁴。翌1932年9月には満州童子団設立のため三島通陽が少年団日本連盟の理事として講習のために派遣され、結団式には連盟理事長として二荒芳徳が赴いている²⁵。皮肉にも、かつて、ベーデン・パウエルがボーア戦争時に期待した少年たちの軍事援護の姿がそこにはあった。

1932年には、さらに軍部の一部から少年団に対する圧迫が生ずる。その象徴的なものが三指礼問題であった。同年10月20日、大阪毎日新聞に寺内寿一師団長をはじめとした関係者による次の意見が掲載された²⁶。

世界を通じて少年団が行なふ拇指で小指を押へ、中の三指だけを挙げる（三つの誓ひを意味する）いわゆる「三指敬礼」はユダヤ民族が「シャダイ」といふ民族神に敬意を表する時に行ふものである。これは国際的運動の急先鋒である英国のベーデン・パウエル中將がユダヤ人である関係から、三指の敬礼が用いられてきたものでどうも面白くない。

三指礼は女子補導団においても用いられているもので、背景には軍部による欧米的青少年教育運動への反発があった。日本のボーイスカウト運動である少年団日本連盟は「服装に金がかかり、都市部の富裕層の運動であって、農村への普及性がないこと、国家主義より国際主義を重視しているように思えたこと、全員主義ではなく精鋭主義であること」²⁷という批判である。これに対し、二荒芳徳理事長は、少年団が大正時代、皇太子時代の昭和天皇イギリス訪問を契機としたものであること、したがって皇室への絶対的信服を行うものであること、三指礼は宮内省にも認められた礼であり、これまでも天皇の奉送迎に用いられていること、を理由に反論を行った²⁸。

1932年12月、文部省は「児童生徒の校外生活指導に関する件」（訓令22号）を出して、小学校3年生以上の教員を主たる指導者とした学校単位の網羅的少年組織の結成を指示した。これは、それまでの少年団日本連盟とは異なる組織であり、各地域においてはそれまでの地域単位の少年団と学校単位の少年団の並立、競合によって一部混乱が生じることになった。1933年5月に再度文部省から訓令が出され、地域の状況を考慮した少年団結成が確認されることになったが、文部省の依頼によって陸軍大佐、大沼直輔たちによる学校少年団組織化にむけた調査研究が行われ、その結果1935年11月には帝国少年団協会が発足した。同年、少年団日本連盟は大日本少年団連盟に改称してその組織整備を行うが、同年には日本連盟の審議委員である永田鉄山（陸軍軍務局長）の刺殺、翌1936年には日本連盟第二代総長である斉藤実が2・26事件で暗殺され、少年団さらに女子補導団関係者にとっても軍国主義、超国家主義の圧迫が深刻化することになった²⁹。

女子補導団は少年団のような明確な軍事援護の姿はない。「満州事変」を境として、大連と長春の女子補導団の活動が停止し、国内においても少年団と連携した組の結成は見られなくなる。むしろ、沼津、日光、久喜等の聖公会教会および幼稚園でのブラウニの組結成が行われることが全体的特徴である。昭和初期に少年団日本連盟との協力で進められた組の結成やキャンプは、「満州事変」後から急速に後退し、聖公会系の学校、教会、幼稚園で

継続するのみとなる。

第一次世界大戦から第二次世界大戦の戦間期、一時期の平和軍縮の時代を経て、世界恐慌の中でのドイツ、イタリアのファシズムの台頭、日本の中国大陸侵略、対抗するイギリス等のブロック経化によってベルサイユ体制は破綻していった。少年団のみでなく、女子補導団も1934年3月を機に、機関誌『女子補導団』の発行は停止し、その後の活動をあとづけられる、まとまった記録は未見である。

なお、ガールガイド、ガールスカウトの世界会議世にはしばらく代表が参加し、1934(昭和9)年の第8回世界会議(スイス・アデルボーデン)には、檜垣茂と、A. K. ウーレーが出席し、1936(昭和11)年の第9回世界会議(スウェーデン・ストックホルム)は欠席するが、1937(昭和12)年の合衆国ガールスカウト25周年記念を記念した国際キャンプ(合衆国アンドレクラーク)に櫻井(吉田)澄が参加した。1938(昭和13)年の第10回世界会議(スイス・アデルボーデン)には、代表としてウーレーが出席し、大日本少年団連盟女子部から藤村千良、藤村喜恵子がビジター参加している。

戦前1934年以降の新しい組の結成として、1939に東京第一組にレンジャー結成が結成されたこと、東京第5組(千住基督教会)が1940年に発足した記録³⁰がある。

なお、補導団活動の停滞を戦時体制のみに帰することは出来ない。『女子補導団』発刊に際して林富貴子総裁自身、じゅうらいの学校教育の問題を克服すべく補導団活動の実践性を提起している。これは一方で、知育偏重への批判は、都市部を中心に上級学校受験の問題が少女たちに具体化していき現状とも理解される。実際、次章以降で具体的に確認していくが、1930年以降、補導団の活動停滞の背景には、高等女学校、さらなる上級学校を視野に置いた学校教育の負荷も存在するのである。

(3) 女子補導団の解散

1942(昭和17)1月31日、次のような文章を会員に送付して女子補導団は解散した³¹。

お寒さ厳しき折柄団員並に旧団員の皆様ますますご健在の御事とお喜び申し上げます。

さて、此度日本女子補導団に於きましては役員会の決議により本年1月末日を以て解散致すことと相成りました。実は近年世界情勢の激変につれ我邦の青少年運動も改革の必要に迫らるるに当り、女子補導団は少年団其他と行動を共にして大日本青少年団の結成と同時に解散して之に統合致す予定でございました処、当時青少年団の女子部は国民学校女生徒程度の部門のみにて未だ本団の加入すべき部門なく、その為適当な部門の編成さるるまで現状維持というこ云う事で今日に到りました。然るに此度大東亜戦争が勃発し社会の多方面で新事態に即した各種の変革を招来致した此の際、自然と本団も従来の組織の下では継続し難い状況に逢着致しました。ここに於て日本女子補導団の使命も一応完了致したものと認め一先づ解散することになりました次第皆様の御諒承を御願い致します。

顧みますれば本団は女子に实际的教養を授くる集団訓練が未だ重要視されなかった時代にその先駆けをなし、創設以来22年微力ながら全国に10余箇の加盟団を有し、忠君愛国と国家社会への奉仕の精神に燃え、救急法に熟達する等、有為にして健康且つ明朗な女性を国家に送出す努める一方、国際親善にも大いに努力して参りました。幸い同情理解ある方々のご援助と役員指導者並に団員姉妹の熱誠と協力とにより聊かでもその理想を実現して参ったことは誠に感謝と喜びに堪えない処でございます。輝かしい本団の歴史は団員生活中の幾多の楽しき思い出と共にいつまでも各自の胸から消えない事と信じます。

終りに臨みこの重大事局下に皆様方には多年本団員として御修得なさいました奉仕の精神と有用な技能とを益々發揮され、それぞれの与へられた立場にあつて尽忠報国の至誠を捧げられん事を切望致して止みません。

昭和17年1月31日 日本女子補導団役員一同

香蘭女学校の教員であり、東京第1組の指導者の稲田旭を最後の事務担当として送られたものであった。世界連盟の加盟証はその後、アメリカ軍による東京空襲の間、桧垣茂、井原たみ子によって守られ、戦後のガールスカウト日本連盟に引継がれていった。

小結

本章では、1925年から発行された機関紙『女子補導団』の本部記録を中心にその活動の展開過程について概観した。

第1節では、イギリス、アメリカを中心としたガールガイド、ガールガイド運動の世界的な展開と日本の女子補導団運動に関して概説した。1922年から1938年の世界大会までの多くに補導団の役員が直接参加し、1928年ガールガイド・ガールスカウト世界連盟結成に際しては、女子補導団は創立会員となっている。戦前のガールガイドに関する国際会議には、とりわけ桧垣茂が4回参加し、最新のガールガイドの内容と方法を日本に伝えている。また、香蘭で教員を務めていたウーレー、ヘールストンは宣教師としての本国帰国期間を利用する形で、欧米での世界会議に日本代表として参加しており、当時の交通情報環境の下では積極的な参加と交流がはかられていたことを確認した。

第2節では、本部日誌にみる女子補導団の活動について年次別に確認を行った。1925-1934年（大正末期から昭和9年）までの女子補導団の活動概要について、本部記録に現れた補導団全体の方針、海外交流、本部事業、組と団員数等について年次、月日別に整理、検討を行った。

第3節では、上記をふまえた上で次の3点を指摘した。(1) 女子補導団結成時から昭和初期までの本部の動向から、少年団との関係について—具体的には、女子補導団としての組の結成について、初期のキリスト教教育とその人間的結びつきから結成された側面に加え、女子補導団時代には、少年団日本連盟との関係がもうひとつの要素となってくること。

(2) 昭和初期に少年団日本連盟との協力で進められた新しい組の結成、キャンプは、「満

州事変」後から急速に後退し、聖公会系の学校、教会、幼稚園で継続するのみとなった。その点から女子補導団への戦争、欧米諸国との緊張関係の増大の影響は無視し得ない。同時に、戦前の女子補導団停滞の背景には上級学校の受験問題等もあることを指摘した。(3) 女子補導団は大日本青少年団等の他の団体に合流することなく、第二次世界大戦中の1942（昭和17）年1月末日に解散した。

註：

-
- 1 ガールスカウト日本連盟『日本のガールスカウト運動』（付資料編）2000年、42,59ページ。および、Vronwyn M. Thompson『1910...AND THEN?』Guide Association 1990。
 - 2 『女子補導団』創刊号・1926年3月、1ページ。
 - 3 同前、4ページ。
 - 4 同前、5ページ。
 - 5 『女子補導団』第2号・1927年3月、2ページ。
 - 6 同前、49 - 50ページ。
 - 7 同前、41ページ。
 - 8 『女子補導団』第3号・1928年3月、3ページ。
 - 9 同前、7ページ。
 - 10 『女子補導団』第4号・1929年3月、巻頭の「偶感」。
 - 11 同前、4 - 5ページ。
 - 12 同前、4ページ。
 - 13 『女子補導団』第5号・1930年3月、2 - 3ページ。
 - 14 同前、2ページ。
 - 15 同前、51ページ。
 - 16 『女子補導団』第6号・1931年3月、2ページ。
 - 17 同前。
 - 18 『女子補導団』第7号・1932年3月、2 - 3ページ。
 - 19 同前、ページ。
 - 20 『女子補導団』第8号・1933年3月、3ページ。
 - 21 同前、2ページ。
 - 22 『女子補導団』第9号・1934年3月、2ページ
 - 23 同前、3ページ。
 - 24 田中治彦『ボーイスカウト』中公新書・1995年、133-134ページ。および、ボーイスカウト日本連盟『日本ボーイスカウト運動史』1973年、160-161ページ。
 - 25 『日本ボーイスカウト運動史』164ページ。
 - 26 同前、170 - 171ページ。
 - 27 前掲『ボーイスカウト』137ページ。
 - 28 前掲『日本ボーイスカウト運動史』169-170ページ。
 - 29 前掲『ボーイスカウト』138 - 140ページ。
 - 30 前掲『半世紀の歩み』29ページ。
 - 31 同前、30ページ。